

# よりそう

Side by Side



第161号

編集責任：三好

編集担当者

## 何が感じてほしい。



中浦祐史さん  
中浦みどりさん  
中浦晃希君  
中浦綾太君  
(青森県弘前市)

綾太君「大人は、上手に薪割りしていた。この3日間楽しかった。」

晃希君「斧が重かった。なたを使って、履れた!! ドラムガんで、火はうまく火燃えた。」

お父さん「昨年5月、1週間、まごころネットに来ました。その時の体験から、家族にぜひ被災地を見てもらいたかった。現況は、とにかく観光でもいい、被災地を見てもらいたい、と聞いている。ところが、子どもが参加・受け入れて下さるボランティア・センターはここしかない。どうい状況になっているかわからず、どんな活動ができるのか、ひょっとしたら子ども連れで仮設住宅を訪問する活動すら被災地のオマケ心と存じませよとがてきかな?」と思えた。

子ども用インソールがなく、瓦礫・回り木に行けるのでもまごころの親Ⅱの農園ごとりに行たが雪が多く薪割をさせていたのだ。

大きい瓦礫は、なくなる、たが、復興のどこまでに行っていない、と感じました。またまた、これから長い道のりがあると思えました。

お母さん「夫が、家族を連れたい。被災地に融けたい、と奮めましたので、家族4人で来ました。今の子どもは、豊かな物的・設備環境でくらししています。」

災害救援、復興ボランティアの皆さんが、11か月に不便な環境のにも暮らし、献身的に活動しておられた姿を子どもが見てほしかった。そして、何が感じてほしいと思います。学生さんや、青年のオマケが子どもと相手をし下り子どもはとても喜んでいました。こうした大人の姿をおぼえておいてほしいですね。お金と時間を節約してボランティアに来てはいる学生さんを見てほしい、覚えておいてほしいです。ボランティアの皆さん、事務局の細川さん、まごころ親Ⅱの宮本さんの配慮に感謝します。ありがとうございました。」

(お礼)：仁太郎-三好

## 11人参加。 兼事務所での報告会(?) 第2回目



兼事務所の越前村さんの依頼で  
3/25(日) PM2:30~  
4:30の2時間、  
遠野まごころネットの活動は存在地でもあった。

1時間ほど、私の報告、1時間ほど質問、自己紹介と今までの活動と語った。会社で遠野まごころネットの活動を報告している人、反原発運動をしていたが、今度災害救援ボランティアに行きたいと思っている人、現地には行けぬが、東京・横浜で手伝っている人など多彩。遠野まごころネットで活動していた人もお出された。

その発言の中で「高校・大学へ広報活動として、参加ボランティアを増やすようにしたら、どうか」という提言があった。ロシア・エゴもたいせつだが、積極的に打って出せばいい、という提言は傾聴に値すると思う。

3/27(火) 天気曇

気温 10℃(夜) 7℃(高)

降水確率 30% (坐大船渡市)

まごころ種 募集

くわしくはHPへ 定例 3/26(月)の宿泊：93人、活動：73人

※3/27(火)ボランティアミーティングはPM15:10~男子宿泊棟